

サイエンスアゴラ2014 ワークショップ 11月9日(日)13:00-14:30

場所:C会場: 産業技術総合研究所 臨海副都心センター 別館 11F 会議室1

参加申し込みはこちらから → <http://bit.ly/1mgGNs6>

「3.11と科学コミュニケーター 私たちは何ができて何ができなかったのか」

震災後の科学コミュニケーション批判、

皆さんはどう見ましたか？

一方井祐子・横山広美(東京大学)

“Are science communicators unnecessary in crisis? Investigation study on the feasibility of science communicators’ activities in emergency crisis —In the case of the Great East Japan Earthquake and Fukushima nuclear disaster on March 11, 2011—” Ikkatai & Yokoyama submitted.

調査概要

目的 : 3.11東日本大震災が科学コミュニケーターの活動に与えた影響を調べる

対象 : 全国の科学コミュニケーター

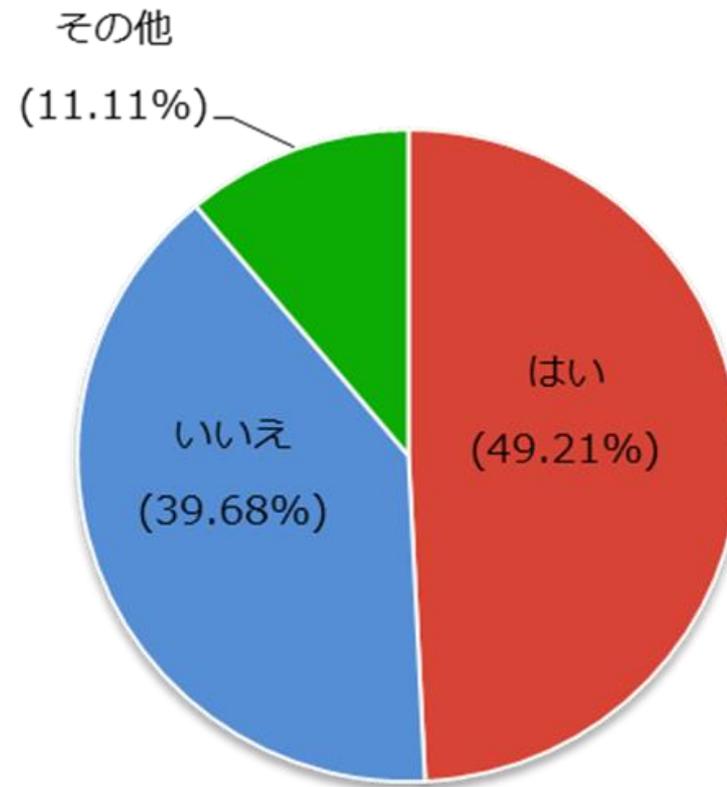
回答数 : 63名(男性35・女性28)

実施期間: 2013/11/13～11/28

方法 : webによる回答

質問1

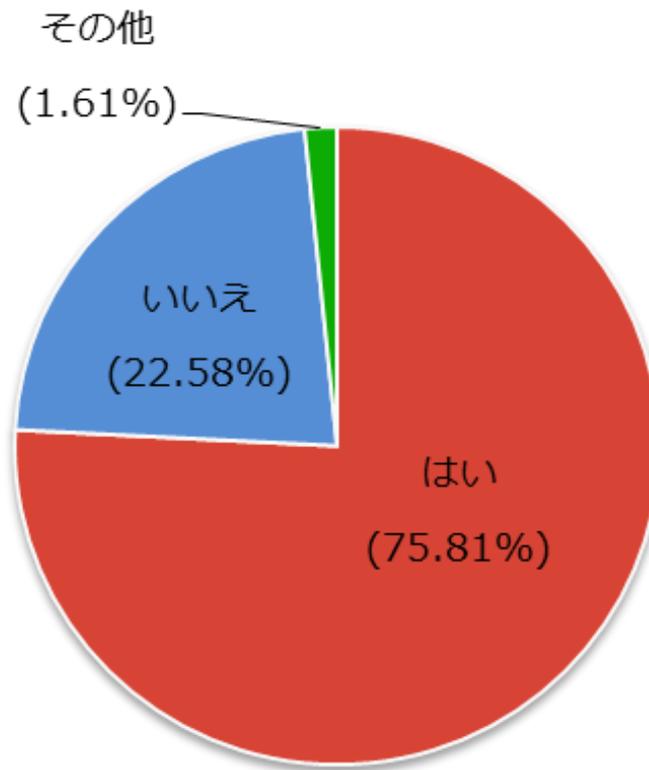
東日本大震災以降、科学コミュニケーターとして活動する上で困ったと感じることや活動の限界を感じたことがありましたか？



n = 62 (無回答1を除く)

質問 2

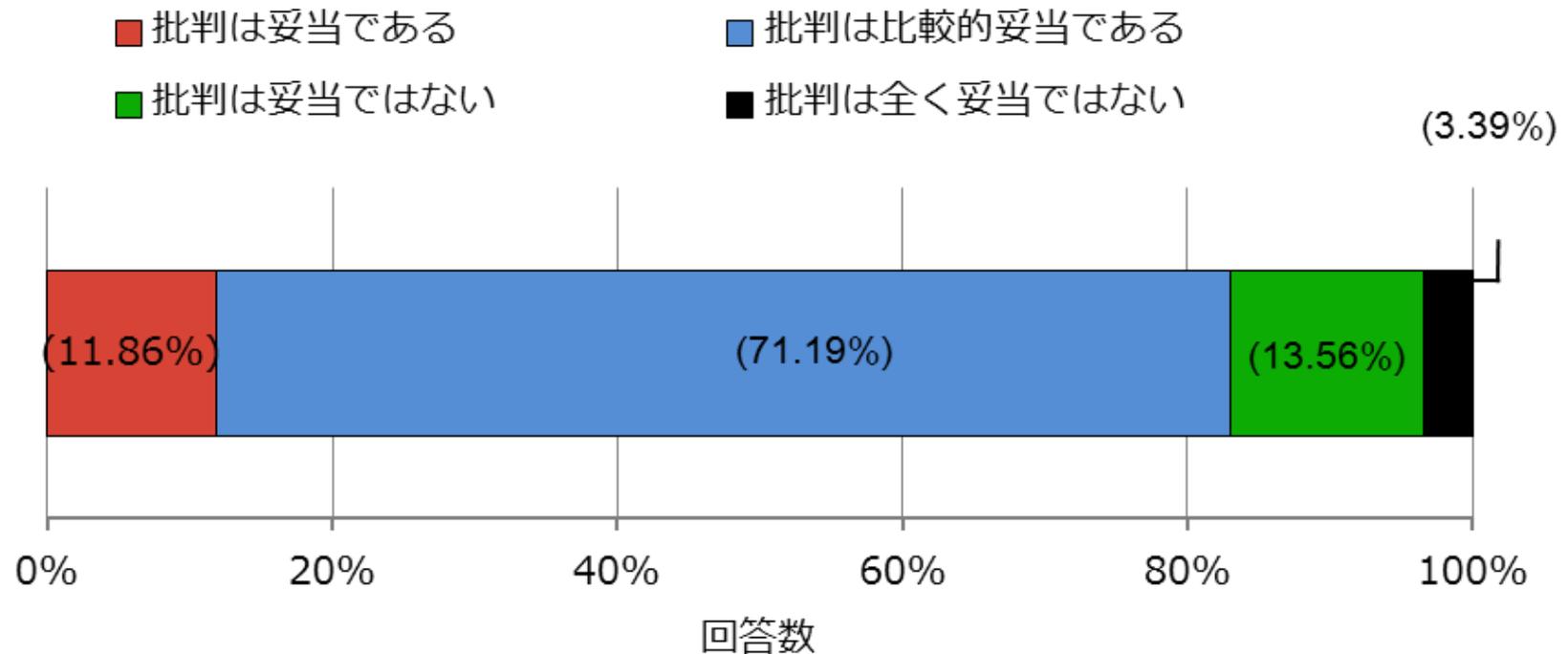
東日本大震災以降、科学コミュニケーションに関する批判を聞いたことがありますか？



n = 63

質問3

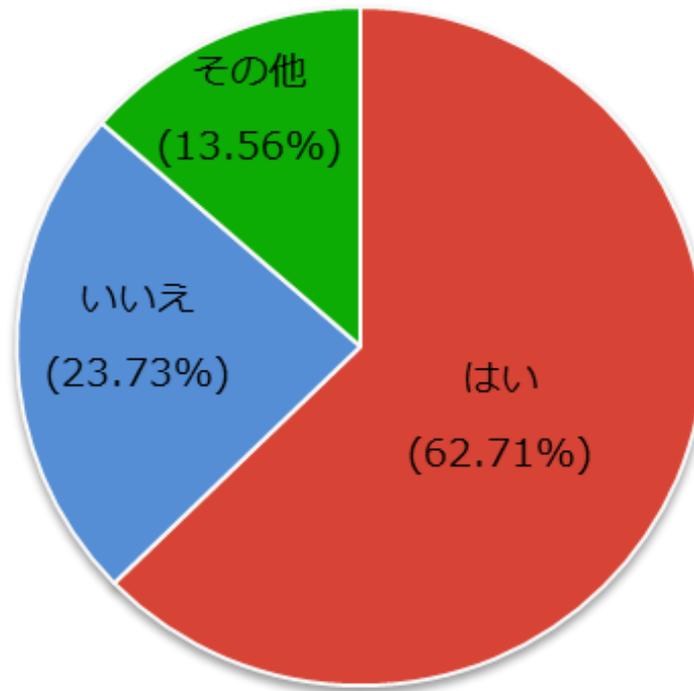
東日本大震災後の科学コミュニケーターに対する批判について、どのように思いますか？



n = 59 (無回答4を除く)

質問4

科学コミュニケーターに対する社会からの期待と現状との間にギャップを感じたことありましたか？



n = 59 (無回答4を除く)

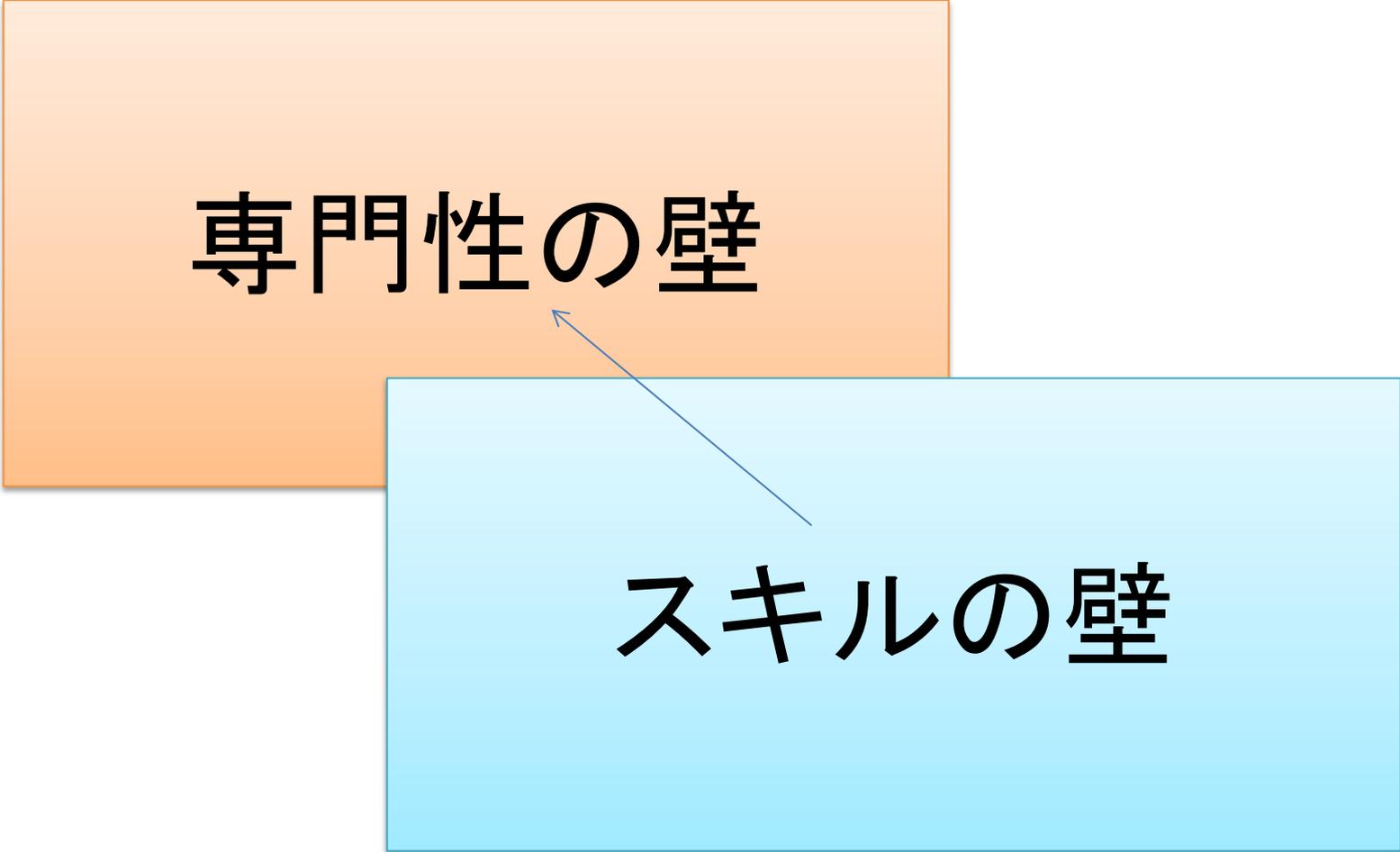
調査結果のまとめ

1. 東日本大震災以降の活動において限界・困難を感じたことがある科学コミュニケーター(49.2%)とない科学コミュニケーター(39.7%)が、ほぼ同じ割合を占めた。特に自分の専門外に踏み出す際の障壁が大きく影響した。
2. 多くの科学コミュニケーター(75.8%)が東日本大震災に関連して生じた科学コミュニケーション批判を認識し、それらの批判を比較的妥当と感じていた。原因はスキル不足が挙げられている。
3. 多くの科学コミュニケーター(62.7%)が、科学コミュニケーションに対する社会からの期待と現実との間にギャップを感じていた。

存在した、2つの壁

専門性の壁

スキルの壁



ワークショップで議論します！

- 登壇者
 - 日本経済新聞社 論説委員, 科学技術部編集委員 滝順一氏
 - 滋賀大学教育学部理科教育学部 准教授 加納圭氏
 - WEcafe事務局代表 科博認定サイエンスコミュニケーター 蓑田裕美氏
- ぜひ、参加をいただき、あなたの意見をお聞かせください。
 - 参加申し込みはこちらから <http://bit.ly/1mgGNs6>
- 予定
 - 13:00-13:30 調査結果説明
登壇者のコメント
 - 13:30-14:30 会場を含めた議論「ではどうすべきか？」